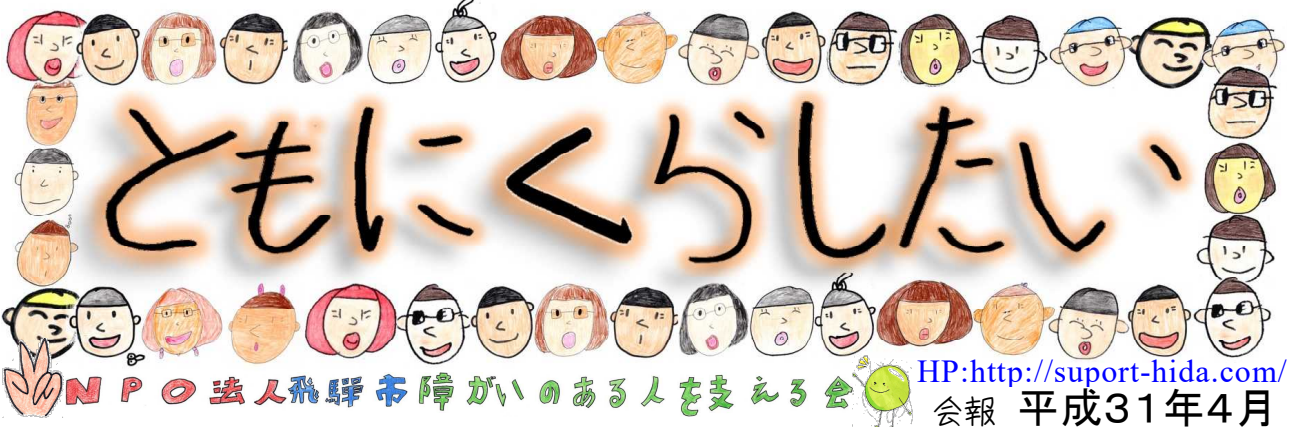


障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして



とむにくらしたい

平成30年度 飛驒市やさしいまちづくり応援事業に参加して

飛驒市の市民福祉部地域包括ケア課では、「飛驒市では、子どもから高齢者まですべての市民があんきに暮らせる、やさしいまちづくりに対する活動を応援する会は、「次世代を担う子どもたちとともに行う障がい福祉教育の推進：アルミ缶、エコキャップ回収から広がる障がい者支援の輪」をテーマに活動してきました。それは、アルミ缶やエコキャップ回収を飛驒市内小中学校の児童生徒と共に行うなかで、障がい者支援の啓発活動を行う「子どもたちのうちから障がい理解を深めるイベント」が誰もが安心して暮らせる飛驒市のまちづくりの一助となると考えているからです。この会報では、飛驒市内小中学校へ訪問し、児童生徒と共に考え、行動したことを中心に報告したいと思います。

私は、キャップやアルミ缶を集めることで障がい者の役に立つという話を聞いたとき、私たちがやれていることがむたにならずに障がい者の笑顔や喜びになっていることがうれしかったです。みんなと同じ事ができなくても、喜びに向かって努力し続ける人がいるか、こいいと思いました。また、障がい者はどのような人なのかを知った上でキャップ集めやアルミ缶回収に今まで以上に取り組みます。そして、みんなにキャップのゆくえを伝えた時のように、アルミ缶で障がい者の方の笑顔が増えたり、役に立ちたりすることを伝えたいです。

援する「事業（飛驒市やさしいまちづくり応援事業）を始められました。そこで飛驒市障がいのある人を支える会でも応募をしました。

るのがよくわかり、この活動を行って良かったと思っています。次ページでは、訪問した各校での様子や子どもたちの動きを伝えます。

上の文は、キャップやアルミ缶を集める目的や意義や障がい者に対する理解が進むよう話をしたあとでの感想です。古川小学校の福祉栽培委員会の児童のものです。本当に素直な気持ちで障がい者と向き合ってくれているのがよくわかり、この活動を行って良かったと思っています。次ページでは、訪問した各校での様子や子どもたちの動きを伝えます。

◇古川中学校

古川中では、福祉委員会の生徒に私たちの願いを伝えました。それを受けて委員の生徒達が自分たちで資料を作成し、学級へ働きかけたり、また、後期は、キャンパーンに取り組み全校の活動へと広げました。顧問の先生は、生徒の様子を「自分の伝え方を振り返りながらどうやってみんなにうまく伝えようか工夫している姿やどのような役に立つのかを考えながら協力している姿があり素晴らしい」と評価してみました。



◇河合小学校

◆ひびきあい集会

12月7日(金)に、NPO法人「飛騨市障がいのある人を支える会」の奈木理事長様をお招きして、障がいのある人もない人も、一人ひとりが大切にされ、安心して暮らせるまちをめざして、自分たちができることは何かを考えました。子どもたちは、それぞれ自分が感じ取ったことを積極的に発言しました。全体会の後、各教室に戻ってこれからの生活において、自分ができることは何かを考え短冊に記入しました。



河合小では、さっそくホームページで紹介していただきます。

◇古川西小学校

古西小では、四年生全体に話を聞いてもらいました。古西小では、四年生がアルミ缶回収を総合学習で福祉教育の一環として取り組んでいます。そこで、障がい者支援との関わりでアルミ缶集めをする意義などが理解できるように話しました。

児童達は、上の写真にみるように毎月一回朝呼びかけをして一生懸命集めてくれました。



◇古川小学校

古小では、福祉栽培委員会の児童に昨年度に引き続き、障がい者支援について、アルミ缶・エコキャップを集める意義、さらに、集めたアルミ缶・エコキャップがどうやって支援につながるのかを話しました。

感想では、「私はこれまで間違ったことを考えていたと気づきました。障がいだけに目を向けるのではなくその人の良さを見つけることがやさしくなるための鍵と知り、私は、障がいのある人と話す機会があればその人のことを知ろうと思えました。」とあり、よく考えているなあと感じました。その後、委員会の児童は、自分たちの活動として取り組みをするよう話し合いました。とくに私たちの話を聞いてアルミ缶やエコキャップを集める意味がわかったのが良かったようです。そこで、収集の意味や障がい者支援について全校のみんなに訴えていくよう取り組みを進めました。

下の写真は、委員が各教室に向いて、自作の資料等を使って呼びかけている場面です。



◇宮川小学校

宮川小では、これまで委員会活動としてキャップ集め、アルミ缶回収に取り組んでいました。そこで、支える会では、全校児童を対象にその活動の意味や意義と障がい者について理解を子どもたちと考えてもらいたく話をさせていただきました。その後の児童の様子は、意味や値打ちを感じて活動を続けていると校長先生が話してくださいました。

◇山之村小中学校

すずちゃんのおうみ



絵本から

山之村小中では、全校児童生徒に話をしました。学校では、人権を考える一環として位置づけてもらえましたが、子どもたちは、障がいのある人が普段どのような生活をしているのかとか回収を行っている意味がわかったと話していました。また、今年は、絵本から障がいを学びました。それも良かったと言ってもらえました。



神岡中では、一年生全員を対象に障がい者支援を中心に話す場を位置づけてもらえました。アルミ缶回収後、その収益がどのような障がい者支援となっているか、障がい者ができる社会貢献としてキャップを集めていること、ピースの中で日々取り組んでいることなどをプロジェクトを使って説明しました。そのときの様子は、左下に掲載した生徒の作文をご覧ください。障がいについての認識が変わったと共に自分から障がい者支援の活動に取り組みたいと意欲が出ていることがよくわかります。私たちは、私たちの話から障がい者支援の広がりができることが大きな願いです。

◇神岡中学校



私は、ほいくえんの時に、しょうかいの人と、ほいくえんが、いっしょでした。そのころの私は、しょうかいが、何かわからなくて、せけたり、あまりしんがらないようにしていました。でも今日の話を聞いて、生まれてくるしみがあるから生まれて、障がいをもっていても、みんなと同じように、いっしょうけんめいに、生きていくことがわかりました。なので私は、障がいのある人でも、みんなと同じように、せめてあやたい

私は、これから障がい者の方のために自分に何かできるかを考えていきたいと思います。今まで、障がい者の方の話を聞いて、行動に移すことができなかった。なので、今回の話を聞いて行動に移して、いけるようにしたい。と思います。今回の話をいろんな人に伝えて、障がい者の方々のために少しでも関わることができたらいいなと思います。

生徒自らの力で生徒から生徒へ広がったなんてすてきなことでしょいか。神岡中では、その後、生徒にボランティアリーダーを投げかけたところ三十四名が名乗り出てくれたそうです。その活動の一部を下の写真で紹介します。



生徒自らの力で生徒から生徒へ広がった

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

ピースへ来る前の生活は、生活リズムがなく起きる時間もバラバラ、布団から出てテレビをつけると相撲をやっている。しばらくすると夕方5時のチャイムが、「あ～今日も時間を無駄にしまった。こんな生活でいいのだろうか。」と不安を抱えていた。今では、ピースを家族の様な存在だと思っている。

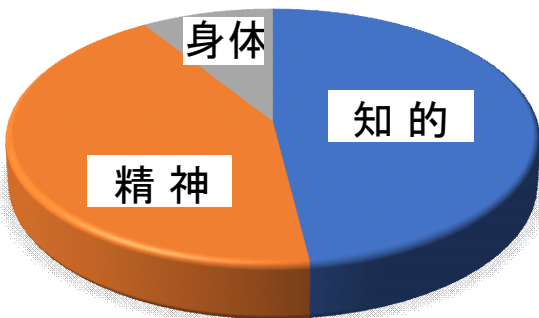
ピースのいいところは、自分の気持ちや体調に合わせて自由に過ごし方を決められるところです。ピースにきて一番うれしかったことは友達ができたことです。将来どこかで働きたいけど、どうしたらいいかわからずにいた。勇気を出してピースへ行って作業したら、毎日みんなに褒められ自信がついてきた。もっともっと働けるように頑張りたい。

いっしょに過ごしませんか 福祉サービス事業所「ピース」

— 事業拡大のため利用者大募集 —

ピースってどんなところ？

<ピース利用者の種別>



ピースの事業：日中一時支援事業

ただ今、移行準備中

日中一時支援事業

就労継続支援B型

生活介護

ショートステイ

<ピースの活動>

詳細はホームページをご覧ください

NPO飛騨市障がいのある人を支える会

こちらでも連絡を待っています

奈木桂子 (理事長) 090 - 4227 - 3610

(連絡先) 飛騨市障がいのある人を支える会
岐阜県飛騨市神岡町山田 2358 番地 2
TEL/FAX 0578-82-1559
E-mail : sasaerukai-hida @ estate.ocn.ne.jp
HP : <http://support-hida.com/>